

## 国際みなとまち大学リーグ国際会議の開催

横浜国立大学の国際交流の特色と港町横浜の立地を活かした新しい学術交流プロジェクトとして「国際みなとまち大学リーグ(Port-city University League、略称PUL)」がスタートしました。2006年11月7日から3日間にわたり、リーグのキックオフを目的とした「国際みなとまち大学リーグ国際会議」が開催され、関連する一連の行事が行われました。なお工学研究院は、この国際みなとまち大学リーグの構想段階から本学学術国際課と連携して事業推進の中心的役割を果たしております(国際会議実行委員長:海洋宇宙システム工学コース荒井誠教授)

### 1 第一回国際みなとまち大学リーグ国際セミナー (11月7日、横浜シンポジア)

国際みなとまち大学リーグに参加予定の7大学代表者と横浜市による計8件の講演がありました。講演題目を以下に示します。

- 1 2009年横浜開港150周年にむけて(横浜市)
- 2 統合的海洋管理教育について(横浜国立大学)
- 3 津波の影響を考慮したタミルナドゥ海岸の防護対策(インド工科大学マドラス校)
- 4 ブラジル沖の挑戦者(サンパウロ大学)
- 5 中国の海上物流と造船業の発展状況(上海交通大学)
- 6 サザンプトン大学の教育研究-海上の視点(サザンプトン大学)
- 7 ベトナムにおける最近の沿岸災害と海岸海洋工学研究の動向(ホーチン市工科大学)
- 8 みなと横浜の都市デザイン(横浜国立大学)

セミナーの合間には忙しい旧程を調整して駆けつけた中田横浜市長のパフォーマンス豊かなウエルカムスピーチもありセミナーは大盛況でした。参加者数は学内外関係者および一般市民等の合計113名でした。

### 2 国際みなとまち大学リーグ発足会議 (11月8日、横浜国立大学キャンパス)

国際みなとまち大学リーグの発足を宣言する「横浜宣言」を採択し、各大学代表者が宣言書に調印しました。これにより、正式にリーグが発足することになりました。今後スタートすべき各種の具体的連携やPULの発展方向についての議論を行いました。またインド工科大学マドラス校が第二回リーグ会議のホスト大学となることが決定しました。

午後は市内見学会として、日本郵船博物館見学、大棧橋見学、横浜市視察船による横浜港見学等が実施されました。視察船乗船会には市民や学生も参加し、海外からの参加者と交流を深めることができました。

### 3 海洋工学に関する特別講演会 (11月9日、横浜国立大学キャンパス)

初日の講演会には一般市民も参加したため、講演は比較的軽い内容の一般向けのものでした。そこで会議三日目には、今回の会議に参加した海外大学関係者のうちの工学系教員による「海洋工学に関する特別講演会」と題した専門的内容の講演会を開催しました。

サザンプトン大、ホーチン市工科大、上海交通大学、サンパウロ大から参加した4名の教員から、それぞれが専門とする海洋工学の話題についての興味深く有益な講義が行われました。参加者は89名と、この講演会も大変盛況でした。特に学生の参加が多く、我が国とは異なった環境や条件のなかで海洋工学に関する研究が活発に行われているという海外の状況を知ることができる大変良い機会になりました。今後も、PUL加盟大学の教員が本学を訪問する際にはできるだけこのような特別講演会を計画する予定です。

### 4 国際セミナー終了後の学術交流状況

工学研究院とPUL参加大学との間ではリーグの枠組みを利用したいくつかの実質的な交流が進行中です。たとえば2007年3月には、サザンプトン大学および上海交通大学の教員が工学研究院海洋宇宙システム工学コースを訪問し、教員や学生の相互派遣に関する打合せをいたしました。また2007年10月には、ホーチン大学などリーグ参加校からの博士課程留学生も受け入れる予定です。

中田市長による歓迎の挨拶



会議終了後の記念写真



リーグ宣言書への署名